



医学情報サービス研究大会参加記 ー再びー

松尾 知香

さる2006年7月15日(土)～16日(日)、千葉大学で開催されました第23回医学情報サービス研究大会に参加してきました。

今回も私の方向音痴は効力を発揮し、東京駅から総武線に乗り換える際に迷い、西千葉駅に着くまでの車窓から千葉大学を確認していたにもかかわらず、駅を一步出てからどちらの方向へ行くのかで迷い、結局学生さんとおぼしき人に目を付けてついて行き、ようやく「けやき会館」を発見し、会場入りを果たしたのでした。

大会が始まる直前だったこともあり、会場は満席状態でした。その後、どこへ行っても感想は「何だか今年もすごい人だなあ」でした。後になんと300名を超える参加者数だったと公表されていたので、松尾の感覚もまんざらではなかったようです。

今年の大会記念グッズは青が基調となっていて、ロゴは“貝殻”。夏のさわやかな“海”をイメージする、大変すてきなグッズたちでした。もしお知り合いの中で参加された方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度実物をご覧くださいませ。すごく“シンプル格好いい”デザインですよ!!

今回のプログラムでは、「一般口演」のほかに、「ポスターセッション・ダイジェスト」「参加者企画」などがありました。「ポスターセッション・ダイジェスト」とは、ポスター発表をされる方々が掲示内容を数分で紹介するもので、「参加者企画」は自分が興味のある内容を

ブースに分かれて聴講するといったものです。これらは、去年のプログラムではなかった試みだったそうです。「ポスターセッション・ダイジェスト」は、発表者の方々が、何に重点を置きポスターを作成されたのかを集約して聞くことができたので、ポスターを見るときのものすごい参考になりました。少人数で開催された「参加者企画」と同様に、発表者と接近して聞くことができたように思います。

もう一つ、去年までのプログラムにはなかったものが「公開シンポジウム」です。これは大会に参加した人だけではなく、一般の方も聴講できるといったものでした。“司書”としての知識を持たない方々が“図書館”というものをどのように感じられたか、大会ホームページ(<http://mis.sinayaka.com/>)に当日のアンケート集計結果が掲載されていますので、ぜひ一度御覧くださいませ。

プログラム全体では、文献入手や情報提供のワザ・患者さまや図書館同士のかかわり合い、インターネットの急速な普及による図書館側の対応など、この情報社会でいかに利用者の要求に応じていくか、現在の自分の業務と今後について見直すことができた内容でした。

最後に、今年は当協議会会員の方々が随所で発表されていたので、私自身本当に身近に感じられた大会だったように思います。この大会にかかわられた方々と発表されました方々、本当にお疲れさまでした!!